



林野宏氏
クレディセゾン
取締役社長

リレートーク



大江 匡氏
プランテックアソシエイツ
取締役会長兼社長

#144

Liquid Space

2005年に“Liquid Space”という概念を本にした。インターネットが普及するに従って、いろいろなものが流動化するという考えである。

例えば、マネーというものを考える。これまで、マネーは石、金属、紙といった素材とリンクしていた。素材とリンクしたマネーは、移動するのに時間とコストがかかっていた。一方で、マネーが社会を循環しながら、増加していく付加価値連鎖の速度は、それが移動する速度に縛られる。ある人がある人にモノを売ったり、サービスを行ったりして得た富を、余剰を残しながら次に使うという循環の中で富は増えるのだが、その速度はマネーが移動する速度で決まってしまう。印刷された紙幣は、画期的な富の増加と流動化をもたらした。産業革命時に現在の資本というものができたのも、この紙幣という軽くて移動しやすい新しいマネーが一因だろう。現在、マネーは素材から解き放たれている。質量がゼロとなったマネーは、最小限のコスト、そして無限大の速度で移動することが可能となり、流動化している。

流動化したものは、マネーだけではない。技術も同様だ。昔、技術は、口伝で傳承されていた。技術が進歩していく付加価値の連鎖は、ある人がある人に伝えた技術をさらに改良して、次の人に伝えていくことによって起こる。これが、口頭の傳承では速度が限られていた。ところが、印刷によって一度に多くの人へ技術が伝えられることで、技術の進歩は格段に速くなり、それにより技術は流動化することとなった。現在、技術情報の交換は、インターネットによって行われ、最大限の速度を持っている。ある時点で技術を固定化して製品化されたデジタル機器の値段は、1日に0.3%下がっていると言われているが、これは当然のことで、そのスピードで技術が進歩しているからである。

これからの経営者は、流動化するマネー、流動化する技術、流動化する価値の中で、経営をしていく必要がある。それには“Liquid Manegement”とも言うべき新しい経営の概念が必要なのではないかと考えている。

次回は **大倉 俊氏**（ノエビア 取締役副社長）にご登場いただきます。